文化

砥石採掘 磨きをかける

◇天然ものの産地・京都で代々従事、断層見極め鉱脈発見◇　土橋　要造

京都は古くから砥石の産地として知られる。800年前、梅ヶ畑の郷士だった本間藤左衛門時成が菖蒲谷の山中で採掘した砥石を後鳥羽上皇に献上したところ、ご嘉賞にあずかり、1190年に源頼朝から日本礪石師棟梁の免許を付与されたことがきっかけとされる。亀岡も産地として栄えたが、今では天然砥石の採掘をするのは私一人だ。

天然砥石は粒子の細かさによって荒砥、中砥、仕上げ砥の3つに大別される。荒砥と中砥は全国でも採れるが、最高品質の天然の仕上げ砥が採れるのは京都だけとされる。さらに亀岡は中砥と仕上げ砥の両方が採掘されることから、高い評価を受けている。

亀岡の天然砥石の層は、約2億5000万年前にできたものだ。ハワイの深海に1000年に1㍉ずつ火山灰や粘土が降り積もり、フィリピン海プレートにのって、ゆっくりゆっくりと移動してきた。それがたまたま現在の亀岡で隆起した。

大きな砥石をほぼ手作業で採掘する

長い年月をかけて届いた自然からの贈り物といえる。

私が4代目を務める砥取家は1877年に創業した。江戸時代までは、一般の採掘が禁止されていたため、地場産業として栄えたのは明治時代になってからのことだ。特に第2次世界大戦後の復興期には多くの家屋が必要になったことから、大工道具を研ぐための需要も高まった。

私の住む地域にも最盛期には30軒以上の砥石屋があった。しかし、電動工具が普及し、人工の砥石が作られるようになったことで、需要は急速に減少した。さらに資源が採りつくされたことから、全国的にも採掘現場はほとんどが閉山してしまっている。

現在、採掘する丸尾山は私が三十数年前に見つけた鉱脈だ。京都市右京区から亀岡市にかけて高さ14㍍に及ぶ砥石の断層が走っているが、平行ではなく、ところどころ上下にずれている。経験で推察できる部分もあるが、層を見つけられるかはほとんど運任せだ。

一度鉱脈を見つければ安定して採掘できるが、ほんの数㍍先にある層とは見当違いの方向に掘ってしまうこともある。そうして資金が持たず、廃業せざるを得ない人も見てきた。幸い丸尾山は良質の砥石がまだまだ多く眠っている。この鉱脈を見つけたとき、あまり褒めることのなかった父から「ようやった」と言われたのを今でもよく覚えている。

採掘はほとんど手作業だ。断層の間を見極めてくいを打ち込み、ハンマーでたたいていく。砥石に加工するためにはできるだけ大きな塊で採る必要がある。境目を見分けるのは難しく、間違えると石が細かく砕けてしまう。亀裂に長いくいを差し込み、てこの原理でえぐり出して採掘する。50～60㌔の砥石を麓まで運ぶので体力も必要だ。

20年ほど前には、需要はほとんどなくなってしまい、廃業を考えた。ものは試しとホームページを開設したところ、世界中から注文が届くようになった。今では世界40カ国以上の料理人や大工らが注文をくれる。天然砥石は自然のものなので、一つとして同じものはない。希望に応じて、最適な石を採掘して届けることが喜びだ。

砥石は日本で最古の道具とも言われている。木造建築を作る宮大工のかんな、ユネスコの無形文化遺産に登録された日本食の包丁、日本刀の研師。天然砥石は日本が誇る文化を長年、陰ながら支えてきた。私には幸い2人の息子がいる。伝統を途切れさせることなく未来につないでいきたい。（つちはし・ようぞう＝砥石職人）

貴婦人の装い 十選

日本女子大学教授　内村　理奈

フレデリック・バジール「家族の集い」

ユニフォトプレス提供

(10)

明るい夏の陽光の下、木陰
い思いに過ごしている画家本
近親者たちの姿を描いたのが
である。場所はおそらく南フ
スのモンペリエ近郊で、画家
まれ故郷であろう。
この絵のなかで、とりわけ
げな様子をしているのが、真
で椅子に座っている女性と、
に座っている女性であろう。
げに見えるのは、ドレスが白
青い水玉模様だからか。さわ
で軽やかな印象を与える水玉
は、19世紀ならではのデザイ
ある。素材は木綿に違いない
小さな円を均等に散らす文
体は、かなり古くからあった
かし、単純な丸い円の模様を
的に均等に散らし大きな面を
るようになったのは、19世紀
とである。19世紀の水玉模様
ほとんどがプリント地であり
械生産の産物である。捺染で
大量に作られたため、既製品
レスによく採用された。軽や
さわやかでファッショナブル
象を与えた水玉模様のドレス
当時のファッション誌や、デ
トの通販カタログなどに頻繁
場し、長く流行したようであ
（1867～68年、油彩、152×230センチ、オル
美術館蔵）

私の履歴書

宮本　洋一 ③

両親

母は九州人、父は技術者

両家の付き合いから結婚に

半世紀を超えるビジネスマンライフの中で印象深い赴任地の一つに九州がある。社長就任の直前の2年間、九州支店長として福岡市に居を構えた。明るく開放的な土地柄で、この上なく居心地が良かった。思えば、私と九州は縁が深い。母・さだ子は大牟田の出身で、その父（私からは祖父）は熊本県北部の山鹿の出身で、菊池族の流れの漢塾の家系であったらしい。手漉きの和紙と糊で作る美しい「山鹿灯籠」で知られる山間部の街である。

母の旧姓は古田。宮本家の祖父が三井三池炭鉱で働いていたことは前回触れたが、母方の祖父・正康も三池炭鉱に勤務していた。そこで家族ぐるみの付き合いが始まり、とりわけ、両家の嫁同士が仲良くなり、後年、双方年頃の息子と娘を一緒にさせることになったようだ。ということで、私には半分、九州人の血が流れているといえる。

母は4人姉妹の次女で、三女のうた子叔母とは一卵性双生児。双子の名前は左大臣と右大臣にちなんだというから、古田家には、古文学への造詣があったのだろうか。この2人は顔立ちがそっくりだったのはもちろん、子どもの頃には同じ時に風邪をひき、大人になってからも、結婚した時期は違っていても、第一子を産んだのはわずか4日違いだった。

父・和男は旧制第三高等学校（現京都大学）を経て東京帝国大学第二工学部に進学。この学部は1942年に軍事研究に携わる工学者や技術者を育成する目的で千葉市に開設された。卒業後父は召集され技術将校となったが、戦場には行かず終戦を迎えた。

復員後、静岡県沼津市に本社がある芝浦機械に勤めていたが、そのうち母方の叔父が在籍する三井金属鉱業に転職する。父は金型分野で割と名の通った技術者だったらしい。私が清水建設の幹部になった頃、往年の父を知る人と話をする機会があり「あなたのお父さんはプラスチック射出成形の金型分野で傑出した技術者でした」と言われ、父の論文が学術誌などに掲載されていることを教えられた。

わが親のことながら事情に疎いのは、父は仕事のことをほとんど口にせず、会社で何をやっているかさっぱり知らなかったからだ。別に真似ではないが、自宅で仕事の話をしないのは私も同じだ。

57年に三井金属が金型事業への進出を目的に100%出資子会社「岐阜精機工業」を設立すると、父は出向を命じられ、本社工場のある岐阜市に転勤することになる。私が小学校5年になった58年春、一家で転居した。ただ、岐阜の暮らしは2年間。私の中学入学に合わせて母と9歳下の妹・伸子も帰京することになり、以後しばらく父は岐阜に単身で赴任していた。

母と積木で遊ぶ筆者

高度成長期、金型は自動車や家電のメーカーからの需要が急増した。71年に岐阜精機は、プラスチック射出成形機などの分野でカナダのハスキー社と技術支援契約を締結。それに伴い、新会社「岐阜ハスキー」が発足し、父はこの会社の役員に就いていたようだ。その後、90年にハスキー社との契約終了とともに同社は「型システム」に社名変更し、現在に至っている。

第一線から退いた後、父は自宅に宮本モールドエンジニアリングを立ち上げ、後輩や知人からの技術の相談事に快く応じていたようである。子どもの目から見ても、泰然自若としていて、ひどく叱られた記憶は全くなく、大学や就職の進路を決める際にああしろこうしろと命じられたことも皆無。静かな生涯を送り、2000年に80歳で亡くなった。

（清水建設会長）

交遊抄

やられた！　辻村　英雄

誰しも中学高校時代には同級生に
ズラをしたものだろう。私もイタ
きで仕掛ける方だったが、一度、
ひっかけられたことがある。私を
けた主は兵庫県立長田高校の同級
谷佳宏君である。
その日、授業をさぼろうとした
返を上谷君に頼んで抜け出した。
きたら中間テストの答案が返さ
り、点数はクラス最低の18点。そ
案用紙に赤ペンで、「この答案に
しい点があるので、職員室に来る
！」と書かれていた。カンニング
していない。疑われるのは心外だ
急いで職員室に行き、先生に「こ
ういう意味ですか？」と詰め寄っ
生の発した一言は「何のことかな
「やられた！」。上谷君のイタ
ったのだ。授業をさぼったことまで
叱られた。彼とはマージャンをよ
た。高3の時も明けくれたため2
見事に浪人。その後、彼は司法試
格し、現在は神戸市の東町法律事
代表社員弁護士を務めている。
この前、三十数年ぶりに会食を
年前の記憶が鮮明によみがえった
を機会にマージャン、ゴルフで付
き合いができればと思っている。
イタズラ抜きで。（つじむら・ひ
サントリー生命科学財団理事長）

三菱HCキャピタル